

## 播種床の改善が高品質なジャガイモを生む

# 新ジャガイモ栽培システム

ジャガイモの栽培では、培土の内に石や土塊が混ざっていると、収穫時の選別作業が困難となったり、傷や打撲の原因になるなど、効率だけでなく、収入にも大きく響く。

日本、とりわけ北海道の露地栽培における培土では、培土器を使って作業するのが一般的だ。ただし、萌芽したところから始める「めくら培土↓半培土↓本培土」といった一連の工程で少なくとも3回は圃場へ入らねばならない。そのことがトラクタのタイヤによる踏圧を生み、土塊の

発生や排水性の悪化を誘因しているのではないかとかねてから指摘されていた。

一方、ヨーロッパでは播種床の造成の段階で石と土塊を畦間に除去してから播種と同時に培土する体系が主流となっている。

簡単に説明すると、まずベッドフオーマという2畦のリッジャーにサブソイラの付いた機械で溝を造った後、ポテトディガを大きくしたような機械（セパレータ）で山の部分から石と土塊を取り除いて溝（畦間）

に落とししていく。それから深植ポテトプランタで植付けしながら後方にある成形板で培土するという流れだ。

培土の内部から石や土塊が除去されるので、収穫時の選別作業も楽になり、人手をかせずになおかつ効率も高められる。肝心の塊茎も障害物のない生育環境の下で肥大が均一化し、収穫時の傷や打撲といった問題も回避できる。また、深めに植付けられているため、塊茎が緑化することもまずない。

他方、石や土塊を圃場から排出せずに畦間に残しておくことで地温の上昇や排水性の向上などの効果も得られる。

これらの作業機の中には、英国ピアソン社から輸入、販売しているも

の含まれる。主に石礫地帯を対象としていたが、最近ではそれ以外の地域でも導入が進んでいるようだ。

今後の農業情勢を考えれば、作物の品質と収量の両面に寄与し、なおかつ省力化が図れるこうした機械は当然必要とされてくるだろう。ただし、費用対効果に見合わなければ意味がない。その観点からすると、冒頭で触れた培土器や若干値の張るローターヒラーでも作業を工夫すれば対処できる部分もあるはずだ。

総合的に判断で、個々の経営に即した作業体系の構築や機械への投資を考える必要がある。

価格については、すべての機種をそのつどの見積もりとしている。

（永井佳史）

■東洋農機株式会社 080-2462

北海道帯広市西2条北125

TEL: (0155) 373191



ベッドフォーマ：2畦分の土寄せに絶大な能力を発揮。サブソイラ作業も同時に行い排水性もアップ



セパレータ：石や土塊の除去に。セパレートされた石・礫は渠に排出する



深植ポテトプランタ：種芋の植付けに最適。慣行法より深植することで、芋の緑化や培土時のトラクタの踏圧を防ぐ

# IEW

注目商品

# 業界初。農薬のアフターサービス 栽培履歴管理システム かすが日誌

BSEや鳥インフルエンザなど、「食の安全・安心」を脅かす事件が各地で起きています。その中でも消費者にとつての一番の脅威（というか関心事）は、「農薬がどれだけ使われたか」であろう。そして、それゆえに耕種農家は肩身の狭い思いをしているのである。とりわけ日本においては。

一方、マスコミは不安を煽るセンチメンタルな報道で「安全神

話の崩壊」を喧伝し、そのおかげで世の中には眉つばものの情報がひとり歩きをしている。

しかし、農薬の登録がコロコロと変わる昨今において、その情報を最も必要としているのは、農薬を適正に使用しようとしている良識ある農業経営者たちなのである。

三共アグロ(株)がWEB上で公開している栽培履歴管理システム『かすが日誌』は、従来の紙ベースで行なっていた防除日誌を同社のホームページ上で行なうものである。インターネットに繋がったパソコンがあれば誰でも無料で利用できる（但し、三共アグロネットの会員登録が必要）。

こうした栽培履歴を記帳（入力）できるシステムは他にもある。しかし、農薬の専門家である農業メーカー自らが、他社製品を含めて適正使用かどうかを無料で、かつ自動的にチェックしてくれるサービスを提供しているケースは他にない。



もちろん他社の農業にも対応している

このシステムのメリットは、以下のとおり。

- ① 農薬の登録の有無や、希釈比率、処理量、使用回数など使用方法が最新の登録にしたがって自動的にチェックできる。
- ② 作成された履歴がサーバーに保存されるので一元管理ができ、また紛失する恐れもない。
- ③ 保管された履歴はいつでも利用可能なので、急な開示の要求にもすぐに対応できる。

具体的な使い方としては、農作業前に、予め作成した農薬使用計画をこのシステムに入力する。たとえば水稲であれば、「(箱施用剤)」、「(除草剤)」、「(殺菌・殺虫剤)」を入力することで、作業開始日から収穫予定日までがシミュレーションできる。その際に万一、農薬使用量が

多いなど、不適正な使用があれば警告してくれる。

また、予定に入っていないかった特別防除をした場合には、その農薬を記帳（入力）することで、農薬使用の収穫前日数を考慮し、収穫予定日を修正してくれる。

トレーサビリティという言葉に振り回されて、新たに設備投資をするよりも、このシステムをうまく使った方がはるかに経済的であろう。追加分のコストを原価に積み上げていくなんてやり方はもはや通用しないのだから。

三共アグロネットのURLは、  
<http://www.sankyo-agro.com/sankyoagronet/index.html>  
(小林秀光)

■三共アグロ(株)：〒113-0033  
東京都文京区本郷4-23-14  
春日ビル6F  
TEL：03-3814-7206



会員登録するだけで誰でも無料で利用できる

おすすめ商品

# REV